

取材 ノート

経済担当

松浦健司

小さな努力の積み重ね

3歳の娘が「バローに行きたい」と言う。自宅近くのバローにはセルフレジが設置されており、ままごとの好きな娘は、籠から商品を取り出してバーコードをスキャンし、買い物袋に入れる一連の流れを自ら行うことで、買い物を楽しんでいる。セルフレジは、大人が立った状態で利用しやすい高さに設定されているが、このバローには子ども用の踏み台が用意されている。

スーパー各社は来店目的を高めるため、プライベートブランドを拡充したり、特売を打ったりと努力を欠かさない。バローなら、鮮魚の対面販売に加え、店内製造のパンやすし、フルーツデザートで競合との差別化を図り、それを記事にしてきた。

日頃は売り上げに直結する特徴的な戦略を取材しきさいな取り組みはあまり記事にしない。ただ、この踏み台のように店舗の小さな努力が来店目的を生むこともある。小さな努力の積み重ねも大事なことだと思う。